

2019年2月3日(日) 朝日新聞[岡山]

真備で飾る おひな様

川崎医福大生らと人形作り

西日本豪雨の影響でひな人形を飾れなくなった子どもたちのため、倉敷市松島の川崎医療福祉大医療福祉デザイン学科の学生26人が2日、同市真備町箭田の臨時真備児童館で、モビール型ひな人形を作る講習会を開いた。小学生や保護者ら約60人が集まり、学生の指導

で色とりどりの人形を作った。

子どもたちは学生に教えてもらいながら、毛糸や紙コップなど身近な材料を使って人形作りに挑戦。紙コップのおひな様に顔を描いたり、マスキングテープを貼つたりして「現代版つるしひな」を完成させた。



学生の指導を受けながらモビール型ひな人形を作る子どもたち＝倉敷市真備町箭田

この会の開催は、自宅も実家も真備町にある同学科の森繪美助教(39)の経験がきっかけ。森助教のひな人

形は実家に保管されていたが、豪雨で実家が被災して汚損。処分したという。被

災者は仮設住宅などに住んでいるため、飾る場所がないという話もあった。

仮設住宅で暮らす箭田幼稚園の仁後春乃ちゃん(6)は母知代さん(36)と参加した。知代さんによると、ひな形は玄関のドアに飾り5人で暮らす。「もしひな

人形があつても、飾る場所がありません。今日、作った人形は玄関のドアに飾ります」。春乃ちゃんは「作るのは楽しかった。家に飾つてひな祭りをします」とうれしそうだった。

(菅野みゆき)

あつたが、実家は豪雨で被災し、ひな形も泥だらけになつて処分しなければならなかつたという。

同町有井にあつた自宅も

浸水し、現在は仮設住宅に

5人で暮らす。「もしひな

人形があつても、飾る場所

がありません。今日、作つた人形は玄関のドアに飾り

ます」。春乃ちゃんは「作

るのは楽しかった。家に飾つてひな祭りをします」とうれしそうだった。